

平成22年度 つくば分館夏の企画展「気象」について

国立公文書館つくば分館

1. はじめに

国立公文書館つくば分館は、所蔵する歴史資料として重要な公文書等を保存し、広く一般の方々の利用に供する当館の役割について理解をいただくため平成15年度以降、毎年夏の企画展を開催している。

つくば分館は、例年つくば市が主催する「つくばちびっ子博士」事業にも協賛している。この事業は、つくば市内の小中学生を対象に、研究学園都市内の研究・教育機関等において科学技術などに直に触れることにより、科学に対する関心を深め、夢と希望に満ちた未来を考える手がかりとすることを目的としている。

「2010つくばちびっ子博士」の開催にあわせ、7月20日（火）から8月31日（火）まで（8月の土曜日は開館）、日々の生活にかかわりの深い「気象」というテーマを取り上げ、夏の企画展を開催した。

期間中における来館者数は延べ2,445名と、多くの方々の来館をいただき、盛況のうちに開催することができた。

2. 企画展「気象」

近年、異常気象による自然災害や地球温暖化などの環境問題が注目されていることもあり、国立公文書館所蔵の歴史資料を中心として、原本資料や写真パネル展示を行った。江戸時代の暮らしと気象とのかかわり、気象観測の成り立ちや使われた器具。また、気象が引き起こしたさまざまな災害の（風害や水害）、

歴史を彩った事件当時の天気図などさまざまな角度から「気象」を取り上げた。さらには、茨城県で起こった気象災害等の解説を取り上げ、身近に起こった歴史を見つめることもできた。

配布した子ども向けパンフレットには、展示を見ると答えることのできるクイズと、歴史公文書探求サイト「ぶん蔵」のキャラクターによる会話形式の解説などを取り入れるなど、親しみやすく分かり易い展示となるよう配慮した。

企画に際して、水戸地方気象台・気象研究所をはじめ、防災科学技術研究所や下館河川事務所のご協力を得られたことにより、写真や地図などの展示資料を数多く取り揃えることができ、内容の深い企画展となった。



玄関ホール 企画展の展示風景

展示内容

- 国立公文書館所蔵もっとも古い天気図
- I 江戸時代の気象と人々の生活
- II 明治期の気象事業にかかわった人物
- III 明治期の気象観測器具

- IV 中央気象台・地方観測測候所の設置
- V 明治期の気象記録
- VI 気象災害
- VII 歴史的イベントと天気
- VIII 四季の特徴的な天気図
- IX 地球温暖化
- X 茨城県の気象災害

常設展示室では、通常の常設展示のほか、開催期間中に、国立公文書館が所蔵する気象に関する原本資料を週単位で展示替えするなど内容の充実を図った。その甲斐もあり、企画展の期間中、数度訪れる方もおられ感心を高めることができた。

気象に関する原本の展示

- 日本歳時記
- 気候説
- 雪華図説
- 北越雪譜
- 颶風新話
- 気象観測法

常設展示



常設展示室

- I 国のかたち
 - II 明治政府のコレクション
 - III 幕府伝来の資料
 - IV 近代日本の歩み
 - V 絵図の世界
- 常陸国に異国船現れる！

3. 和綴じ体験講座

夏の企画展の開催と同時に、和綴じの体験講座を実施した。和綴じとは、針と糸で紙を綴じることにより、極力資料を傷めることなく保存することが可能な古来から伝わっている製本の技術である。体験講座を通して資料を大切に保存、管理してきた先人の知恵に学び、公文書館の役割を体感してもらおうという意図のもと行っている。今回は、「康熙（こうき）綴じ」と「一折並綴じ」の体験講座を開催した。「康熙綴じ」体験講座は、8月の土曜日（4回）に予約制で人員を募った結果、80名の参加があり、好評であった。

「康熙綴じ」（こうきとじ）

「康熙綴じ」とは、和本の綴じ方の一つで袋綴じの一種である。四つ目綴じの上下端の穴と、上下の右角との間にもう一つずつ穴をあけ、糸を通して角のまくれを押さえるようにした綴じ方であるが、これは、中国清朝の皇帝・康熙帝が好んで書物に用いたとされ、いつしか康熙が「高貴」とされるようになったものである。六針眼訂法 ろくしんがんでいほうとも呼ばれる。



康熙綴じ講座の様子

「一折並綴じ」

「一折並綴じ」とは、現在一般的に行われている方法で、とじ糸（かがり糸）だけで折り丁の背を結合するやり方である。預金通帳やノートのとじ方もこの綴じ方である。



一折並綴り講座の様子

めずらしい綴じ方を無料で体験できるということもあり、子どもだけでなく大人の方の参加も多かった。表紙部分にイメージキャラクター「モジョジョ」の名札シールを貼るなど、世界に一つとなる手作りの冊子を完成させて喜ぶ姿も見受けられた。このような体験講座を継続することで、国立公文書つくば分館の役割について知っていただく素材となることを期待している。

4. 成果と展望

企画展および体験講座について大人の来館者を対象にアンケートを実施した。感想として「わかりやすかった」49.6%、「普通」39.3%との回答を得ており、約90%の方に評価していただいた。子ども達には「感想ノート」に自由に記述してもらった。

一部を紹介すると「歴史を知ることができた」や「ノート作りが楽しかった。また、来年も参加したい」など和綴り体験の感想も多く寄せられていた。

一般の方からは、「身近に災害があったことがわかりやすく、理解できた」「貴重な資料で興味深い展示だった」「写真や絵のパネ

ルが多くて楽しめた」などの好意的な意見が数多く寄せられた。一方、「場所が分かりにくい」、「展示スペースをもう少し増やしてほしい」、「照明が暗い」などの要望的意見が見受けられた。

なお、子ども達が生きた「感想ノート」は、今後の企画展に役立てるようとりまとめ、展示の記録として玄関ホールに配置し、常時閲覧可能としている。

今回は、来館履歴があると答えた人の割合が約45%にのぼり、再来館率が増えてきている。企画展への来館者は、夏休み中の子どもと親というケースがほとんどであるが、今回は祖父母も一緒といったようなグループでの参加も多く見られた。また、帰省・旅行などで遠方からの来館者もあるなど知名度もアップし、敷居の高い公文書館から身近に感じる公文書館へと変貌しつつあるようだ。

今後は、こうした来館者に加え、さらに幅広い年代の来館者が増加するようPRを図り、より分かりやすく一般の方々に関心を持っていただけるような展示を企画するとともに、限られた環境の下、より見やすい工夫を重ねるよう努めてまいりたい。



国立公文書館 つくば分館